

2月も引き続き寒い日が続きました。今月はそれぞれの授業で中間試験やクイズがありました。また、久しく会っていなかった友人とばったり会った時に、英語上達したねと言われることがあり非常に嬉しく感じました。

#### ・授業

今学期に履修した授業の一部を報告します。

##### ・ Introduction to Advertising - ADV 300

この授業には心理学専攻、コミュニケーション学専攻、経済学専攻など様々な専攻の学生がいます。先日の課題で、「あなたが広告会社の幹部だとして、現存するお菓子メーカーから既存のチョコレートの新しい広告を頼まれ、どのような広告を行うか・STPマーケティングを基に考えて下さい」という課題ができました。

STPマーケティングとは、効果的に市場を開拓するためのマーケティング手法の事で、どの市場に焦点を当てるのか、その市場を選んだ理由(どのようなメリットが顧客に与えられるのか)と、そこでの商品展開をすることの有効性などの説明が課題では求められました。私は、明治のミルクチョコレートをテーマに選び課題を作成しました。なぜ様々な専攻の学生がいるのか疑問に思っていました。この課題を行ったことで納得できました。

##### ・ New Media, Culture & Society - MS 326

このクラスはレクチャーとディスカッションにクラスに分かれて行われます。ちなみにディスカッションのクラスはTAが受け持っています。未だに毎回緊張します。隣の学生とペアを組み、TAから与えられた質問についてお互いどう感じるのか議論をし、発表します。先日の授業では、ギフト・エコノミー、アテンションエコノミー、ドットコムバブルなどインターネットと経済に関することを学びました。私も感じていたことなのですが、バナー広告を見ると私に興味に沿った広告がwebページに出ていることがよくあります。インターネットの登場により、情報発信媒体が増えたことで、情報過多の状態が起こっており、消費者のアテンション(関心・注目)が情報量に対して稀少になることで価値が生まれるという考え方がアテンションエコノミーであり、これは上記で記述したADVの授業の課題と関係性があると感じました。これら2つの授業からマーケティングに関して非常に興味が沸きました。

#### ・その他

今月は、インド人の友人からインド事情を聞く機会が多々ありました。私は、彼に出会ってからインドに非常に興味を持つようになりました。話の中で、私が考えることと全く違う部分もありましたし、同世代ならではの共感できる部分もありました。私の考えが「日本の文化」と言うことは必ずしもそうではないと思うので、ここでは不適切な気もしますが、あえて「日本との違い」として説明します。彼が言う「インド事情」もインドは貧富の格差が激しい国ですので、インド人の中でも、大学教育を受けることができる人達のことを指すと思います。まず飲酒・喫煙に対する考え方が全く違いました。日本では、飲酒は一種のコミュニケーション方法のひとつであると私は考えます。例えば元旦です。家族が集まり、お酒を嗜み家族団欒の時を過ごすことがあると思います。特別な日でなくても、父親と一緒に酒を飲み交わすことは一般的に言われていることですし、研究室の仲間飲み会に行くことは学生同士縁を深める機会にもなります。仕事が終わると部下が上司から飲み誘われるとそれに付き合わなければいけないといった風習も日本にはあります。しかし、インドでは真逆だそうです。飲酒はどんなに微量であっても「悪い」ことだとみなされるそうです。その友人によると、一度口が滑り母親に少しかけビールを飲んだことを言ってしまった際には1週間無視され

続けたそうです。それだけ悪いことだと考えられているそうです。ちなみに特別なお祝いの日には炭酸飲料を飲むそうです。これは彼らの宗教によることではなく、それとは関係ない「文化」として根付いていることだと言っていました。喫煙はもつてのほかだとも言っていました。もし彼がタバコを吸っている姿を親に見られると縁を切られると真剣に言っていました(彼は非喫煙者)。また、私が大きく勘違いしていた点にも気付かされました。大学一年目からアメリカに留学しているインド人学生はインド本土の人から見ると「逃げた人間」だと一般的に思われているそうです。インドでは大学入試が非常に厳しく(この点は日本と似ている。)この大学入学試験を逃げた学生・または失敗した学生で裕福な家庭であると、親が子をアメリカに送るそうです(アメリカは大学入学する際に日本のような筆記試験がえないため)。インドでは一般的に親が子供の進路を決めるそうです。私は、インド人を見ると賢いのだろうなと勝手な先入観を抱いていましたが、彼の話聞いてインドの事情はとても複雑だと感じました。インドは日本以上に学歴が考慮される国だと思います。彼も大学受験に失敗し、志望でなかったインドの大学に入学したものの父親が納得いかず急にアメリカに行くことになったそうです。それまで彼はアメリカに行くことなど考えもしていなかったと言っていました。彼は現在UIUCの大学院生で結果的に良かったと言っていますが、今でも大学受験に失敗したことを思い出し、深い傷だと言っていました。また彼がいつも口にすることは「裕福になる」ということです。自分がやりたい仕事云々ではなく「給料」が全てだとはっきり口にしました。そのためにはアメリカで職に就きグリーンカードを得なければいけないと言っていました。インドには帰る気がないのか尋ねたところ、インドには帰らない、職についたら家族もアメリカに連れてくると言っていました。それだけインドの生活が苦しいのかと思ひ複雑な気持ちになりました。またインドだけに限らず、韓国・中国の友達と話しも同じような話をしたことがあり、日本人であることを考えさせられました。